

IV-363

地方都市開発における地区景観整備目標設計方法に関する考察

立命館大学理工学部 正員 春名 攻
 （株）長大 正員 正岡 崇
 立命館大学大学院 学生員 長谷川 匠一
 立命館大学理工学部 学生員 ○寺田 英樹

1. 本研究のねらい

今日のような多様化社会の到来に伴い、大都市から比較的離れた地方都市においても魅力ある地域づくりが求められるようになってきている。また、優れた景観をもつ地域が整備されることにより、地域全体のイメージの向上にもつながることが考えられる。一方、地域開発が進行すると地域全体の景観イメージが大きく様変わりするという問題も抱えている。そこで本研究では、地域の変化に最も敏感に反応を示すと考えられる地元住民を中心に調査対象とし、既存の優れた景観を持ついくつかの類似したイメージを見せることにした。そして、中でも最も優れていると思われるイメージを選定してもらったうえで、人々が対象地に望む景観のイメージ要因を把握し、かつどの空間構成要素に影響を受けているかという点を捉えることにした。そして、これらを参考に、住民が地域を代表していると思うと同時に、地域開発の計画からいっても重要であると思われる地区の景観整備目標を設計することを目的とした。

2. 地区景観整備計画のための方法論の構成

(1) 地区景観整備計画のプロセス

地区景観整備計画は、計画検討の初期的段階から、計画的検討の進捗と歩調を合わせたかたちでの景観的検討が必要であり、都市・地域計画の各計画段階に対し合目的、効率的に各検討作業を行なう必要があると考えた。

したがって、対象とする地区における土地利用・空間利用や施設整備段階で具体化される設計案を、都市・地域計画のマスタープラン策定段階において、先取的に十分に検討を加えておくことが必要である。そして、都市・地域計画に沿った

かたちでの景観整備計画を策定し、より魅力ある空間を効率よくデザインすることができるよう配慮することが必要であると考えた。

このような考え方にもとづいて、地区景観整備のプロセスを図-1のように構成した。

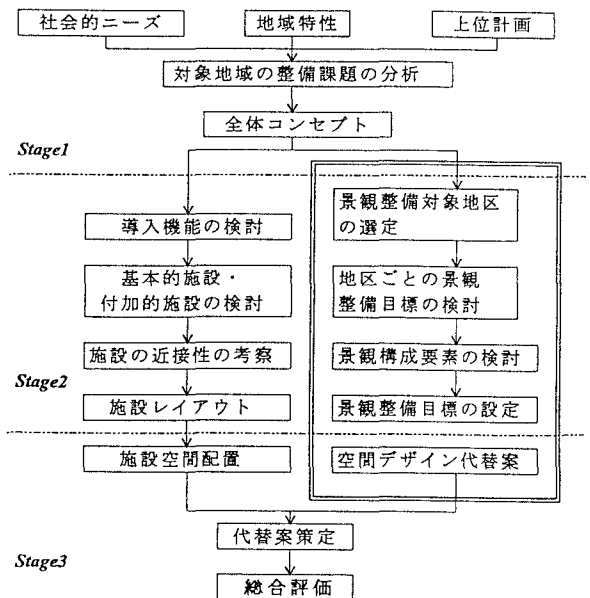


図-1 地区景観整備のプロセスフロー

(2) 対象地域における地区景観の類型化

都市・地域を形成している景観は、一般に多種多様に存在しその構成も複雑であるため、その全てを対象に検討を行なうことは、現実的には困難である。地域の景観を総合的に設計するためには、地区景観の類型化を行ない、それらに対し景観計画の検討を行なうことが効率的かつ効果的であると考えた。つまり本研究では、対象地域の構想計画段階で与えられる将来像、および土地利用計画等を考慮し、さらに既存の景観資源を有効に利用

した形での地区景観分類を行なうことができると考えたのである。また、先に述べた景観分類の考え方を考慮し、都市整備に対する意識調査によって明らかにされた地区整備に関するニーズをもとに景観整備の検討対象地区を選出することとした。

（３）地区景観整備目標の設計方法

本研究では、上述のような地区分類を行ったあとにアンケート調査を行うこととした。

簡単に述べると、まず、各地区について優れた景観をもち、かつ種類の異なる４枚の写真を見せ、その中から対象地にふさわしいと思われる写真を１枚選んでもらった。次にその写真から受けるイメージ及びその写真を選んだ理由、どの景観構成要素が写真を選ぶ際に影響を及ぼしたかという項目の結果をもとに分析を行った。そして、これをもとに地区ごとの景観整備目標を設計することとした。なお、アンケートの調査対象としては、開発による身の回りの環境変化に対して敏感である地元住民を中心とした。

３．実証的検討

本研究における方法論を、地方都市である滋賀県坂田郡米原町を対象に適用し、実証的検討を行なうことで、その有効性を検討することとした。

（１）景観整備地区の選定

対象地域である米原町の将来像（“交流文化公園都市”）、米原町が持つ、湖、田園、山林等といった景観特性、及び地域住民に対する地区景観整備に関するニーズ調査結果、等々をもとに次のような①公園②湖岸地区③駅前広場④住宅街⑤宿場町、の５つの地区について景観整備目標を設計していくこととした。

（２）景観整備目標に関する考察

今回は紙面の都合上、５つの地区のうち公園についてのみ考察を述べることにする。因子分析を行った結果、４つの因子軸でこの公園の景観意識は説明できると考えた。この因子分析結果は、表－１に示すこととする。次にこの因子負荷量を用いてクラスター分析を行なった。この結果と因子分析の結果を用いて、４つの因子軸の軸名称を設

定することとした。この結果を表－２に示す。

表－１ 因子分析結果

公園イメージ	因子 1 軸 因子負荷量	因子 2 軸 因子負荷量	因子 3 軸 因子負荷量	因子 4 軸 因子負荷量
明るい・暗い	0.4274	-0.6029	0.3031	0.417
広い・狭い	0.1931	-0.8304	0.2413	0.2765
力強い・弱々しい	0.1894	-0.4112	0.3395	-0.0824
整然・雑然	0.346	-0.1484	0.5157	0.0688
暖かい・冷たい	0.9055	-0.1849	0.2018	0.2638
清潔・不潔	0.3258	-0.3284	0.4954	0.3656
華やか・落ちついた	0.29	-0.2408	0.2124	0.6463
都会・田舎	-0.0427	-0.176	0.7699	0.2016
軽やか・重さ感	0.0733	-0.0413	0.0532	0.5202
緊張・ゆったり	-0.4841	0.3533	-0.0329	-0.1639

表－２ 因子軸と因子負荷量の高い評価項目

因子	評価項目
1 軸 快適性	明るい感じ
	暖かい感じ
2 軸 存在性	緊張した感じ
	ゆったりとした感じ
3 軸 美観性	整然とした感じ
	清潔な感じ
	都会的な感じ
4 軸 力量性	華やかな感じ
	軽やかな感じ
	重さ感のある感じ

以上の考察を通して、将来米原町における公園の景観整備は、快適性に影響を及ぼしている評価項目に関しては、明るい感じ、暖かい感じが望まれていることがわかった。また、存在性、力量性に関しては、ゆったりとした感じ、華やかな感じが望まれていることがわかった。次に、美観性に関しては、整然とした感じ、清潔な感じ、都会的な感じが望まれていることがわかった。

以上の結果を総合すると、将来米原町における公園の整備においては次のようなことを考慮すべきであると考ええる。美観性に関しては、例えば、トイレやゴミ箱等の衛生面も考慮して清潔感あふれる整備をおこなうことが必要であると考ええる。快適性に関しては、季節感を感じさせるような色とりどりの花々や高さや種類の異なる植栽を充実し、アクセントを持たせた公園整備をおこなうことが必要であると考ええる。存在性、力量性に関しては、地域に根付くようなどっしりとした存在感を持ち、心身ともにリフレッシュすることのできるような大規模な公園の整備をおこなうことが必要であると考ええる。（上記の考察を取りまとめた、対象地に望ましいと思われる公園の景観整備目標は講演時に発表することとする。）